

小児用分野食器製品に関する開発支援

浜野 貴晴

佐賀県窯業技術センター

近年、共働き夫婦の増加に伴い、保育施設と定員の増加が図られてきており、待機児童解消へ向けた大幅な整備が今後進められることから、こども用とりわけ幼児用食器の需要が見込まれている。また、少子化により、1人のこどもにかかる費用も高くなる傾向があり、より付加価値の高い高額なこども用品・ギフトの製品分野が新たな市場として近年活性化している。特に、こどもの安心・安全への意識は高く、国内製の磁器製品へのニーズが高まっている。加えて、日本独自の食文化とそれに大きく関わりを持つ器文化、食育といった幼児教育・しつけの面からも器に対する関心は増しており、日本の伝統的な食器を幼児期から使わせたいと考える親の声も高まっている。

本支援事業では、既存製品にない付加価値を持つ新たな製品の開発支援を行うことにより、産地製品のこども用食器市場分野での差別化や競争力向上に寄与することを目的とした開発支援を行った。

Project to support for development of child's eating utensils

Takaharu HAMANO

Saga Ceramics Research Laboratory

In recent years, due to the increase in double-income couple, childcare services and the capacity has been increased, from the fact that accelerate enhancement advances for the elimination of children on waiting lists in future, it is expected to demand of tableware for children, especially for infants. In addition, the declining birth rate, there is a tendency that the expense of bringing up for one child is raised to be applied, more value-added expensive Child & Gift product category has been recently activated as a new market. In particular, there is a growing demand for domestic-made porcelain products with high awareness of children's safety and security. Moreover, interest in tableware are growing in terms of Japan's unique food culture and the tableware culture that has a closely related to it, also early childhood education and home discipline such as dietary education. And there's a growing the voice of parents who want to use traditional Japanese tableware from childhood.

In this support operations, by performing the development support of the new value-added product, it was carried out development assistance for the purpose of contributing to the improved differentiation and competitiveness in the Children's tableware market.

1. 背景

1.1 保育施設と定員の増加による市場規模の拡大

近年、共働き夫婦の増加に伴い、その需要の高まりを受け、保育施設と定員の増加が図られてきており市場規模も拡大している。待機児童解消へ向けた大幅な整備が今後進められることから、小児用とりわけ幼児用食器の需要が見込まれている。

1.2 少子化に伴うこども用品・ギフト市場の活性化

「6ポケット」と表現されるように、少子化により、一人のこどもにかかる費用も高くなる傾向がある。より付加価値の高い高額なこども用品・ギフトの製品分野が新たな市場として近年活性化している。

1.3 食の安全性

こどもの安心・安全への保護者の意識は高く、プラスチック製品には有害物質の溶出、擦傷など耐摩耗性、耐久性、耐熱性等の問題、安価な海外製陶磁器には安全性

や品質への懸念があることから、国内製の磁器製品へのニーズが高まっている。

1.4 日本独自の食文化と器文化への注目

和食の世界無形文化遺産登録により、日本独自の食文化とそれに大きく関わりを持つ器文化、食慣習についても注目を集めており、日本の伝統的な食器を幼児期から使わせたいと考える親の声も高まっている。食育といった幼児教育・しつけの面からも食器に対する関心は増している。

2. 目的

本支援事業では、既存製品にない付加価値を持つ新たな小児用分野食器製品の産地内事業者に対する開発支援を行い、差別化や競争力向上に寄与することはもとより、ターゲットユーザーに明確にその価値を伝えるプロモーション戦略に取り組むことにより、産地製品の小児用分野食器製品市場での認知および購買意欲を高めることを目的とした。

産地企業では、この分野に向けた製品への開発支援を強く求めており、産地内の中小企業の開発の道筋を指導するとともに、企画から販路開拓にいたる独り立ちできる事業化の確立のため、本事業による支援を行った。

3. 支援内容

本支援事業は、平成26年度よりの3か年の計画としており、その支援内容は、以下の通りとなる。

3.1 デザイン開発要件の検討・抽出

こどもの食に関する特性、アイテムに関する特性、使用状況の特性の把握

3.2 商品化、事業展開を考えたプロモーション戦略立案支援

大手教育企業などとの連携、専門家からの意見聴取、マーケティング

3.3 製品デザイン・技術開発支援

アイテム抽出、デザイン設計、加工等検討、試作、機能の検討等

3.4 商品化支援、公的審査会への応募・求評、展示会への出展や販路開拓支援

メディアと連携した開発の経緯と新商品価値を伝えるコンテンツ制作、訴求力のあるストーリー展開

4. 現状報告

市場および既存商品の把握と課題抽出を行うとともに、いかに商品を普及させ、事業として確立させるかを考え、産地内事業者とビジネスモデルを検討した。その結果、技術担当、販売・プロモーション担当、メディア、幼児教育の有識者やデザイナーなど産地内外の事業者との協働にて開発を進めるプロジェクトチーム型の商品開発手法を行うこととし、チームの構築を図ってきた(図1)。

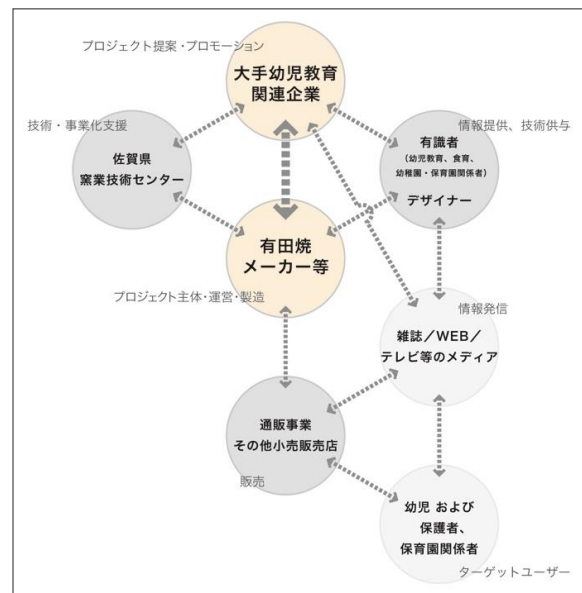


図1 プロジェクトチーム関係図

産地内外の関連事業者が連携し、企画から流通までに行っているプロセスで求められる作業を分担する。

加えて、有田焼サイドで企画書をまとめるにあたり、大きく3つの方向性での開発提案をまとめた。

プロジェクトチームを構成するため、コンセプト立案からデザイン検討案、プロモーション戦略までをまとめた企画書を作成し、参加事業者へのアプローチを産地内事業者が主体となり進めてきた。おおよそのチーム構成は構築できたが、販売力、情報発信力を持った企業の参画を求め、プロジェクトチームの強化を図っている。今後は産地内事業者が主体となり、企画書をベースに開発を進めていく。当センターは、事業化支援および、形状検討等での技術支援を行っていくこととしている。